

令和3年度第7回西宮市民ファミリーハイキング事業報告

奥アンツーカ（株）

【実施日時】 令和4年3月19日(土) 10:00~12:00

【実施概要・コース】

第7回ハイキングは、当初は雨という天気予報も出る中、曇天ながら雨の心配なくハイキングを開催することができました。



10:00 に市役所南側の六湛寺南公園に集合、お申込み 38 名、当日参加 35 名で実施しました。

まずは、市役所前線を通り、国道 43 号線を南に渡って、酒蔵が酒造りに欠かせない井戸が連なる、宮水井戸に向かいました。

江戸時代、海岸よりの東西 2 丁南北 5 丁ほどの地域から湧き出る地下水が、酒造りに適していることがわかって以来「宮水」と呼ばれています。このころから西宮で盛んにお酒が醸造されるようになり、今でも、各酒蔵ごとの宮水井戸が並んでいる場所です。

ここで、有名な酒蔵の看板がかかる井戸を眺めながら、次の見どころである酒蔵通りの日本盛煉瓦館に向かいました。

酒造メーカーの日本盛は、明治 21 年（1888 年）約 50 名

の近代化に目覚めた青年たち南摂青年協力が結成し、その中から「産業の興隆に資し、西宮の発展に役立つ事業を企てよう」とする有志たちが青年有為会をつくり、翌年の明治 22 年に株式組織の西宮企業会社を設立し、酒造業を開始。これが会社のルーツとなっています。

2000 年には、日本盛は、日本酒の良さと楽しみ方を情報発信する施設、酒蔵通煉瓦館を設けました。煉瓦館には、日本酒に合う本格料理をはじめ、お酒にあう全国から厳選された味や、米ぬか美人を始めとした化粧品を使用したエステ、ガラス工房での工房体験など体験型で楽しめる施設があります。

ハイキング当日、この煉瓦館を訪れて施設見学やショップでの買い物を楽しみました。

続いて、海に面した港の先にある今津灯台に向かいました。

今津は江戸時代に酒造と酒の積み出しで栄え、樽（たる）廻船の出入りでにぎわった港町で、その今津の港の一角に現役の木造灯台が立っているのが「今津灯台」です。この灯台は、今からさかのぼること 200 余年。江戸時代の今津郷を代表する酒造家のひとつ、長部家の 5 代目・長兵衛がこの港に出入りする船の安全を願い建造したもので、その後、6 代目・文次郎によって再建されたものが、現在の灯台の原型



となっています。

当初、灯火には油皿を用い、これをツルベ式の滑車で引き上げる構造でした。大正時代のはじめに電化されるまでは、長部家の奉公人が毎夕、点火に行くのが日課だったそうです。現在は戸外の明るさに応じて自動点火する仕組みとなっており、昭和 43 年の灯台記念日には、航路標識として海上保安庁から正式に承認され、「大関酒造今津灯台」の名で海図にも記載されるようになりました。また、49 年には市の文化財指定を受けています。

現在は、3 年前の台風 21 号で西宮も高潮の被害に見舞われたことから、巨大な高潮対策用の水門を背景に灯台が見られるという、特異な景観となっています。

灯台見学のあと、甲子園浜自然環境センター沖の初代阪神パーク跡に向かって、甲子園浜沿いの遊歩道を海を見ながら歩きました。

初代阪神パークはかつて西宮にあった遊園地で、現在の「ららぽーと甲子園」があった場所にあった「阪神パーク」のさらに前進、「浜甲子園阪神パーク」のことです。

阪神電鉄は、枝川の廃川によって生まれた地域の開発を大正末期から行いました。甲子園球場、浜甲子園健康



住宅地開発、阪神甲子園線という路面電車の敷設、運動場やテニスコートなどのスポーツ施設、海岸沿いの娯楽施設などを次々と建設します。

当時、「浜甲子園阪神パーク」と呼ばれていたこの娯楽施設には、動物園、水族館と遊園地施設があり、動物園の中には、大きな池の中に島を作って猿を放し飼いにしたお猿島、岩山を作ってヤギに斜面を登らせた山羊の峰などがあり、当時は珍しい自然の状態に近い展示が行われていたそうです。また、水族館には、日本一の水槽があり、水槽を下から見上げるという展示方法がとられ、世界で初めてのゴンドウクジラの飼育も行なわれていました。また、遊園地にはメリーゴーランド、飛行塔、ミニ自動車などが設置されていました。今はハマヒルガオ群落がみられるこの甲子園浜に、こんな歴史がありました。干潮の時には、その時の遺構が水面から顔を出している

のを見ることができます。

この「浜甲子園阪神パーク」跡を横目に見ながら、全員、スポーツイベントが行われていた「浜甲子園運動公園」に到着しました。

【当日経路】(地理院地図より)

